校長荒木規夫から保護者・生徒皆様へのメッセージ【不定期コラム№20】R4 2/2

「俳句の授業」

坪内稔典さんの代表作

タンポポの　ポポのあたりが　火事ですよ

三月の　甘納豆の　うふふふふ

水中の　河馬が燃えます　牡丹雪

【１年生での俳句の授業】

京都教育大学名誉教授で俳人の坪内稔典（つぼうちねんてん）さんが考案した「俳句の授業」は、俳句の会の実施方法の１つで、参加者が、お互いの作った俳句を作者がわからないようにして発表し、お互いの感想を交流する「句会」を国語の授業にしたものです。以前リハビリ病院での実践を紹介しましたが、子どもたちが「言葉の力」を実感し、推敲の大切さと面白さを知ることができるよい授業だと私は考えています。

期末テストの終了後冬休みまでの間に、１年生全クラスで２時間ずつ、担当の先生と一緒に授業をさせて頂きました。

１時間目は、俳句の基本を学びつつ、全員が俳句を作ります。今回は「とりあわせ」という技法を使ってみんなで作ってみました。

下はあるクラスで黒板に書いたことです。

めあて

俳句のルールを理解し俳句を一つ以上つくる。

俳句のルール

・季節のわかる言葉を入れる

・五・七・五の音数

（例）

冬の朝　荒木規夫○

○○○○○

冬休み

（担任の名前）○○

○○○○○

【よい句をつくるコツ】

・「とりあわせ」をつかう

・写真のように見たまま描写

・「気持ち」は書かない

・言葉の意味の重複を避ける

ルール説明の後、俳句の例を作ります。「冬の朝　荒木規夫○　○○○○○の○の部分にひらがなを１字ずつ入れてみて」というと、生徒が口々に言ってくれます。「荒木規夫はさむそうだ」「（担任の名前）さん笑ってる」何で冬の朝に先生は笑ってるんかなあと考えるなど、季節の中に誰かが立ってるだけで句になります。２つの物を並べたときに感じる関係性を使って句作する技法を「とりあわせ」といいます。

１時間目に全員俳句を完成しました。その俳句を一覧に清書したプリントを使って２時間目に句会をします。

句会の方法

① 出題（席題・兼題・宿題）

② 俳句をつくる

③ 投句（作った句を紙に書いて提出します）

④ 清書（今回は先生がします）

⑤ 選句（今回は二句選んでいただきました）

⑥ 披講（選句の発表）（選んだ句を発表します）

⑦ 合評（みんなで選ばれた句の話をします）

⑧ 作者の名乗り（三位までの句の作者が名のります）

上が句会の方法で、２時間目は⑤から始まりました。

私や学級担任、国語科担当教員も投句しました。生徒たちは、楽しそうに活動してくれました。⑧ではどのクラスでも拍手喝采です。

各クラスで人気のあった俳句（生徒作品）の一部を右に紹介します。クラスや順位は関係なく、冒頭部の 50 音順に並べています。

帰り道　オリオン座の下　染まる白

キラキラと　町が光って　冬景色

寒空に　六角形の　雪の花

白くなり　少し息つき　また一歩

冬の朝　かじかむ手にはく　白い息

冬の朝　つめたい手には　白いくも

冬の朝　ふとんのバリア　かたすぎる

冬休み　遅寝遅起き　昼ご飯

北海道　なくてはならない　ホッカイロ

雪ふりて　君の心に　恋がふる

句会の後、人気句や自分の気に入ったクラスメイトの俳句を参考に、生徒たちは全員、自分の俳句を推敲しました。１文字変えるだけで、意味も雰囲気もずいぶん変わることを感じたようで、何度も書きなおしている生徒もいました。

１ 年生の各クラスで提出してくれた俳句はすべて「おーいお茶」に応募しました。入選俳句があることを楽しみにしています。

普段、全校集会での講話や、すれ違う時のあいさつ程度しか、生徒と私の交流はないのですが、今回、１ 年生のほぼ全員と、俳句を通じて言葉を交わすことができ、温かい気持ちになりうれしかったです。

【不定期コラム№21】へつづく

第三中学校ホームページ　では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/